

2021年02月23日（火）【外為Lab】松田哲

タイトル：【コロナ禍終息後を見据える】

今日は、天皇誕生日で祝日。

東京市場は休場。

コロナ禍が始まって1年以上が経過した。

現在は、緊急事態宣言が発令中だが、ニュースなどの報道では、新規感染者が急激に減少している。

緊急事態宣言が有効であった、と言える。

私自身の生活では、コロナ禍が始まって以降、つまり、この約1年の間、人と会う機会が、極端に少なくなった。

当然のことながら、外での会食の回数は激減している。

それでも、全く外食が無い訳でもなく、少人数で、コロナ対策を考慮して、会食をすることもある。

その際に、けち臭い話なのだが、外食の値段が高いことに気が付く。

以前は、外で食べる際に、例えば、「冷やしトマト」が500円であっても、あるいは、「オニオンスライス」が500円であっても、気にすることは無かった。

自宅で食べる機会が増えたことで、冷やしたトマト一個（場合によっては、半個）が、500円であることは、高すぎる、と感じる。

玉ねぎにしても、同様に感じる。

外で、銘酒を注文すると、一合1000円前後、もしくはそれ以上の価格だが、酒屋で銘酒を買ってくれば、その半値以下の価格で済む。

正直なところ、コロナ禍以前には、気にもしなかったことに、意識が向かうようになった、と感じている。

何を言いたいのか、たとえば、緊急事態宣言が功を奏して、新規感染者が減少しており、時間の問題で、緊急事態宣言が終了するのだろうが、そして、緊急事態宣言終了直後は、それ相応に、人々の経済活動は復活し、活況となるのだろうが、さらに時間が経過すれば、コロナ禍以前の状態には、戻らないのだろう、ということだ。

コロナ禍が、一年以上続いていることで、人々の意識に変化が起こっている、と考えている。

これから、ワクチンの普及に伴い、
——ワクチンの供給に困難が伴うので、その実質的な普及には、かなりの時間がかかる
のだろうが——
新型コロナウイルス問題も、徐々に下火になっていく、と予想される。

しかしながら、新型コロナウイルス問題で、
「何が必要で、何が不要不急なのか？」
多くの人々が、考えざるを得なかった。

コロナ禍が収まれば、収まった直後は、日本人気質のお祭り気分で、コロナ禍以前の活況を、一時的に取り戻すのだろうが、その一過性的な時期を過ぎれば、改めて「不要不急」を切り捨てても良い、と気が付いてしまうのだろう。

コロナ禍は、ワクチンの普及に伴い、終息に向かうのだろうが、コロナ禍によって、変化した部分は、変化したまま残るところも多分にある、と考えている。

これからの時代は、
「そういった変化に対応するフレキシビリティが求められる」
ということなのだろう。

マーケットも、また、しかり。

+++++

(2021年02月23日東京時間14:00記述)